

シンポジウム

ウクライナ人道危機から4年

～ 紛争下での、こころとからだの

リハビリテーション～



©URCS



©JICA

ロシアとウクライナ間の長期にわたる紛争の影響によって、ウクライナでは兵士や民間人の負傷者が増え続けています。また一般の疾病による人びとのリハビリテーションのニーズも増え続けていますが、医療従事者の不足やこころとからだのリハビリテーションを継続して受けられる仕組みが不足しており、人びとの健康を脅かすことに繋がっています。

今回の報告会では、武力紛争による影響を受けて苦しんでいるウクライナの人びとに焦点を当てて、日本と現地でリハビリテーション支援に携わっている各団体による活動報告とパネルディスカッションを行います。ぜひご参加ください。

～ パネリスト ～

- | | |
|-------|-------------------|
| 磯野 光夫 | 独立行政法人 国際協力機構 |
| 延本 尚也 | 兵庫県立リハビリテーション中央病院 |
| 峯島 昂佑 | 公益社団法人 日本理学療法士協会 |
| 平野 亨子 | 武蔵野赤十字病院 |

【開催日時】

2026年3月18日(水曜日)
17:00～18:30



【参加方法】 オンライン配信

Teams会議(Microsoft)を使用して開催いたします。こちらをクリック。スマートフォンやタブレットをご使用の場合は、上の二次元コードからアクセス(アプリのインストールが必要)。
会議ID: 4730115283943/会議パスワード: UU7Nv7QP

主催・共催



お問い合わせ 日本赤十字社 国際部 国際救援課
Tel: 03-3437-7088(直通)

プログラム

17:00~17:05

～ ご挨拶 ～

片岡 昌子 日本赤十字社
国際部国際救援課 課長

17:05~17:50

～ 活動報告 ～

リハビリテーション支援の取り組み

伊藤 智典 公益社団法人 日本理学療法士協会
事業部国際事業課 課長

磯野 光夫 独立行政法人 国際協力機構
人間開発部 国際協力専門員

芳原 みなみ 日本赤十字社
ウクライナ現地代表部 首席代表

17:50~18:30

～ パネルディスカッション ～

紛争下でのリハビリテーションの課題

磯野 光夫 独立行政法人 国際協力機構
延本 尚也 兵庫県立リハビリテーション中央病院
峯島 昂佑 公益社団法人 日本理学療法士協会
平野 亨子 武蔵野赤十字病院
片岡 昌子 日本赤十字社(進行役)

パネリストの紹介

医師。これまで40カ国以上でJICAの保健医療分野の案件立ち上げ等に従事。ウクライナでも現地調査の他、理学療法分野を含めた保健医療分野の支援案件の実施に従事している。



Isono Mitsuo



理学療法士。2010年4月より兵庫県立リハビリテーション中央病院に勤務。JICAと兵庫県の連携によるウクライナへの支援として、ウクライナの医師、作業療法士、理学療法士の受け入れ研修を担当。脊髄障害認定理学療法士、神経専門理学療法士。

Nobumoto Naoya

理学療法士。総合病院や療育センターでの勤務を経て、特定NPO法人へ入職。ラオスにて障がい者・障がい児への人道支援に携わる。2023年より日本理学療法士協会事務局へ入職、政策提言事業や国際関連事業に従事している。



Mineshima Kosuke



理学療法士。日本赤十字社がウクライナ赤十字社と実施している「イヴァノ=フランキウスク州訪問リハビリテーション支援事業」において、ウクライナ赤十字社の理学療法士に対して技術指導を行う。ウクライナに2回の派遣。

Hirano Kyoko